

「水爆実験成功」と伝える朝鮮中央テレビ＝テレビ朝日から



午後「6日午前
時30分」、朝
美談を成功さ
朝鮮中央通信
による核実験
以来、4回
百正午に国家
（SC）を召集
実験により、
が高まるのは
本政府もNS
策と分析を始
政権は経済改
に進める「並
進路線」を
主張。日米
韓は、北朝
鮮が弾道ミ
サイルに搭

朝日新聞

1月6日
水曜日

号
外



朝日新聞

速報も詳報



広島大学学生自治会

従軍慰安婦問題を「解決する」として行われた日韓合意もまったく同じだ。人間の尊厳を踏みにじるような在り方を、二度と繰り返さないための合意などでは全くない。10億円というはした金で、日本は侵略戦争をなかったことにし、韓国は噴出し続けるパククネ政権への怒りを抑えるための政治的取引でしかない。そして、日韓の対立を「整理」し、互いの同盟国であるアメリカとともに、日韓米で、体制危機をむかえた北朝鮮の軍事的行動をきっかけに戦争をはじめる準備を整えるための合意だ。朝鮮半島で戦争を行うための作戦計画「5015」が米韓の間で昨年6月の段階ですでに練られている。ここに日本も「集团的自衛権」を発動し参戦しようとしているのだ。

●戦争を担わされるのは 支配者ではなく私たち学生・労働者だ

各国の利害のために進められる戦争において、実際に戦争の準備をさせられ、戦場に行かされるのは、どの国でも支配者ではなくて私たち学生・労働者だ。とりわけ学生・大学が、戦争にいかなる立場をとるのが問われている。兵器開発・核開発には専門的な知識をもった学者・研究者が必要となるからだ。人殺しのための兵器を開発するために専門的な知識を総動員する存在が。

第二次世界大戦で「原爆の父」オッペンハイマーは原爆をつくった際には感動してガッツポーズしたが、広島・長崎に原爆が投下された後には「私の手は血塗られている」と苦悩した。アメリカの原爆開発は当時、ナチスより先に原爆を作り、ナチスの暴虐を阻止するためだと言われていた。その中で研究者たちは軍事研究・核開発を進めていってしまった。日本でも京大で核開発が進められた。どの国でも同じだ。何のために学問するのか・生きていくのか、重圧のある中で、責任をもって行動していかなければならない。



核実験の成果を確認するオッペンハイマーら。研究者が戦争に加担することで、原爆はつくられた

何のために生きるのか、今まさに問われている。昨年に防衛省から大学に対し軍事研究の公募が行われたが、「軍事と民事の境界は曖昧だから」という言い訳で58大学が応募した。研究成果を何のために使うかは防衛省が決めることであり、安保法制も3月から施工される今、戦争に利用されることは明らかだ。こんな在り方を大学が進めていることを容認し、推進してしまう側にまわってしまうのか、私たち自身に問われている。

●戦争を阻止するのも私たち自身だ

だからこそ、私たち自身に戦争を止める力がある！ 学

生は社会の未来を決定する存在だ。戦争に向かっていく大学・社会の在り方を、具体的に進められていく戦争協力を私たちが拒否しよう！ 未来を担う私たち自身が社会をつくっていく立場にたとう。

社会を担っているのは、支配者ではなく自分たち自身なんだと世界中で学生・労働者が実際に立ち上がっている。まさに朝鮮半島での戦争が始まろうとしている中で、韓国の民主労総という労働組合は1月8日、パククネ政権打倒の1月ゼネラルストライキを宣言する集会を行った。民主労総はパククネ政権が昨年から強行しようとしていた労働法制の改悪を数派の大規模デモと、ゼネラルストライキで阻んできた。それでもまだ労働改悪を進め、日韓合意のもとで戦争を進めようとしているパククネ政権を本当に倒そうと立ち上がっている。



●改憲・戦争絶対反対で闘おう！

今夏の参議院選挙は、すべての人々に戦争にいかなる立場をとるのかを問うものとなる。安倍政権は、緊急事態条項を憲法に新設し、緊急事態の名のもとに内閣が全権を掌握して憲法を無効化させることを狙っている。この緊急事態を理由に「国家存続の危機だ」と戦争反対の声を潰し、戦争をすることが狙いだ。こんな在り方を許せるわけがない！

昨年は安保法制反対で1000万もの人々が立ち上がった。悔しくも安保法制は強行採決されたが、戦争反対のこの怒りが消えたわけではなく、むしろ戦争経験者をはじめ、「安倍は絶対許せない！」と怒りは高まっている。18歳選挙権ということも含め、参院選に向けて政治意識は高まっていく。

この中で、大学の中から戦争協力絶対反対で立ち上がろう！ 私たち自身が戦争協力を拒否すれば戦争なんてできないんだということを、安倍政権に示す団結をつくりあげよう。戦争さえ仕方がないと言って迫ってくる社会の在り方と闘い、自分たちが未来をつくっていく存在だという学生の誇りを取り戻そう！

戦争を仕方がないと思う人はいても、今のまともじゃない社会を守るために命を懸けたいと思う学生・労働者はいない。私たち自身が、戦争絶対反対で立ち上がる世界中の労働者・学生とつながり、戦争を必要としない新しい社会をつくろう！

「戦争情勢をどう見るか」学習会

1月14日(木) 16:30～ ※飛び入り歓迎
@学生プラザ1Fミーティングルームにて

時代や情勢を見て何もしなければ、「時代のせいにするな」と言われるのは当然です。問題なのは、時代を変えるために情勢をとらえることです。第三次世界大戦にまで発展しかねない情勢を、戦争を止める立場で学習します！